



会報 2024 年 3 月号

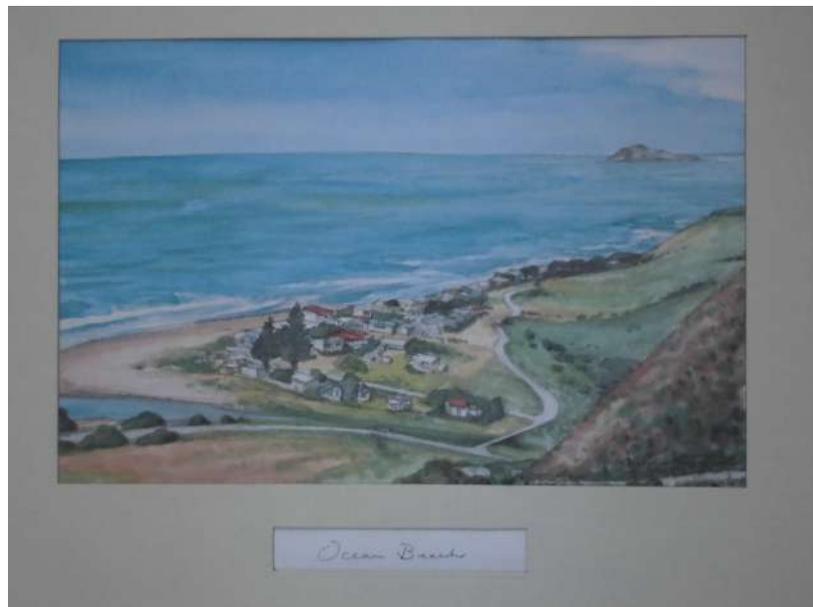
日本ニュージーランド協会 (関西) 創立 1970 年 11 月 11 日

New Zealand Society of Japan, Kansai

What not seen gives more pleasure than what seen Cherry blossoms

(C.kagano)

新年早々から能登半島の震災・羽田空港の航空機事故等痛ましいニュースが続いておりますが、これからは明るい出来事が多くなることを願っています。
当協会は、本年役員改選の年でありますので、自薦・他薦を問わずご推薦をお願いします。



「Ocean Beach」 Hawke's Bay (松沼清司)

- 第 289 回例会 3 月 24 日 (日) 長居植物園 (50 周年記念植樹・桜のお花見)
第 290 回例会 5 月 11 日 (土) 会員総会・懇親会 中央電気倶楽部等

【事務局】日本ニュージーランド協会 (関西)

〒 558-0004 大阪市住吉区长居東 2-17-28, 407 (石井気付)

電話・Fax:06-6607-2112

<http://nzsocietykansai.com> E-mail:nzsjk@yahoo.co.jp

■ 第 289 回例会（長居植物園）

創立 50 周年を記念して昨年 1 月桜の若木を長居植物園に植えましたが、順調に育っております。当会の木はまだまだ細いですが、周辺の桜の樹木は大きくきれいな花を毎年咲かせています。春の花々が咲き始めている植物園の散策、花と緑と自然の情報センター見学、お隣の自然史博物館も見学できます。

とき 3 月 24 日 (日) 11 時 30 分 植物園内売店附近集合

食事 各自でお弁当などご用意ください。

費用 入園料 200 円 交通: メトロ御堂筋線 長居駅 3 号出口から 800m

*多少の雨では開催の予定です。不安な方は当日の 8 時頃にご確認ください。

携帯:090-1020-1971

追記 千里の万博記念公園では「SAKURA EXPO 2024」を 3 月 20 日～4 月 3 日まで大規模で開催し、3 月 25 日～4 月 3 日まで桜並木のライトアップを夜 9 時まで行うそうです。



昨年の花見会



今年の 2 月 23 日

■ 第 290 回例会 会員総会・懇親会（予告）

とき・ところ 5 月 11 日 (土)

総会 10 時 30 分～11 時 30 分 中央電気倶楽部・会議室

懇親会 12 時 00 分～13 時 30 分 ホテルエルセラーン大阪 桂（和食）

総会の会場より徒歩 2 分、会費:3000 円

*詳細は、総会資料等を含め 4 月下旬までにご送付いたしますのでご予約ください。

■ Aotearoa やさしさの循環する国で 第9回

あこがれのステーションナリー

年に1回ごった返す売り場

2月から全国で新学期が始まった。クリスマスをもたいた2か月を超える夏休みが終わって、子どもたちはようやく学校に戻った。長い休みを持って余した保護者たちのほっとしたため息が聞こえてくる。学校再開のタイミングに合わせて、1月末に恒例の文房具の安売りがある。年に1回、この時はノートやその他の文房具も大幅に割引になるから「Stationary（ステーションナリー; 文房具）購入リスト」を持った親子で売り場はごった返す。文具のデザインはいたってベーシック。かわいいデザインや洒落た文具も見かけるようになったが、たいていは No frill（ノーフリル; 質実剛健）で、申し合わせたように全員が同じメーカーの製品を使っている。手間をかけるのはノートやワークブック類の購入後に「デュラシール duraseal」という硬化ビニールの保護カバーをすることぐらい。登下校の際、雨が降っても傘をささない子どもが多いので、デュラシールはずぶ濡れのカバンの中で中身を守ってくれて便利だった。



リストにある文房具を見つけると、どんどんカゴに放り込む。この青い買い物カゴには車輪がついているので、重くなっても大丈夫。

ちなみに教科書は学校が購入準備するもので、学校の所有物だ。家に持って帰るには先生の許可がいる。だから、カバンの中にはノートとワークブックしか入っていないことが多い。それすらも教室に置いていけという先生が多いから、低学年だと大きなバックパックを占領しているのは着替えと大きな弁当箱だけ、ということになる。弁当といっても、モーニングティーとランチの2回分。大きな水筒も持参するから、どの子のバッグも例外なく膨らんでいる。キーウィ学生のお弁当事情については、またの機会に詳しくレポートしたいと思う。

新年度登校の初日は、始業式にあたるフォーマルなイベントも特になく、簡単な朝礼であっさりと始まる。登校開始の日でさえ、同じ地域でも学校ごとにずれている。一斉に開始すると初日の交通渋滞が激しくなるからだ、と聞いたことがある。車、バス通学が圧倒的に多いので、一理あるのかもしれない。地元でも、A 高校は2月初旬から、B 高校や C 中学は第2週からと、今年も五月雨式に始まったのだった。

「暗号」リスト

文具の指定は教科を担当する教師に一任される。前年に配られる文房具リストは、学校や地域、学年や選択した科目によっても変わる。そしてそのリストは不思議な暗号で埋まっている（ように見える）。学生たちはそれらを新学期初日までに揃えなければならない。

教師になりたての頃は、自身も学年ごとの文房具リストを作るのに頭を悩ましたが、親や学生にとっても慣れるまではリストの解読はけっこう面倒らしい。例えば、すべてのノート類にはサイズや罫線の数、ページ数によって「識別番号」がついている。添付の写真を見てほしい。2X1B5 と書いてあれば、1B5 サイズのノート2冊の準備が必要だし、1x20 page Clear Folder

とあれば、日本でもおなじみのクリアフォルダーの 20 ポケットのものをひとつ、1x Casio Graphics FX9860G111 Calculator とあれば、指定されたメーカー、ぴったりの品番の高性能電卓を探さなければならない。

All Classes Lap top or equivalent device w/bhs.nz/ICTForLearning	ESOL 2 x 1B5. Ruler, pencils, A4 ring binder, subject divid-	Maths 2 x 1E5 Blue, black & red pens 30cm ruler, compass & protractor Scissors & glue Stick 1 x Casio graphics FX9860G111 calculator
Art YR10 Art Pack available through school uniform shop - online or at the school	1 x 20 page Clear file Glue Stick Bilingual Dictionary	
Chinese 2 x 1H5 1 x Page Clear file 1 x glue stick Headphones Pens and pencils in different colours Workbooks will be issued in class	Finance & Society 1 x 2B8 (optional) 1 x 20 page clear file	Media Studies & Society 1 x Glue stick 1 x Blue pen
	Food Technology Laptop is essential for this class Pens, pencil	Science 1x 2B8(Hardcover) or 1 x 1B8(Softcover) Pencils, eraser, scissors Blue, black & red pens Coloured pencils, ruler, calculator, glue stick Students new to the school need to purchase the Year 9 workbook from Sci Dept
Drama 1 x A4 40 page Clear file	French, German, Spanish 2 line spaced whiteboard	

YEAR 10 (中学 3 年生) の文房具リスト

1B5 やら 1H5 のように、ノート類に割り当てられたアルファベットや番号はよく似ているうえに、同じ規格（サイズやページ数）の製品でも、メーカーによっては割り当てる記号や番号がまちまちで、まったく別の記号表示になっている。だから買い物にはメーカーごとの「対照表」まで必要になってくる。こうなれば、立派に暗号だ。ひとりっ子家庭は少ないから、これを 2-3 人分（学年や学校ごとに違う複数のリストを手にし）文房具探しをすることになる親たちは、リストと首っぴきで必死の形相だ。

近ごろは大手サイトのオンライン注文、有料配達システムも導入されてずいぶん注文が簡単になったとはいえ、注文の申し込みの締め切りが早い。日本のように「明日来る」ような迅速なサービスは期待できないので、やはり新学期直前の売り場は混んでいる。文房具のオンライン注文は、早めに新学期準備をした利用者だけに許される特典のようだ。

アイスを食べてもリサイクル

高校で美術を教えていたときに、デッサンをするのに学期初めに各自 1 本ずつえんぴつを持参するよう指示を出した。2B の濃さだったと思う。ところが忘れてくる学生続出。指定したのは有名ブランド（Staedtler ドイツ製）のもの。1 ドルちょっとなので高くは買えなかったとは思えない。えんぴつがなくてはレッスンにならないのでこちらの手持ちを提供するハメに。貸し出しの記録をとったり、返却したかを追跡するのにけっこうな時間が取られた。

ふだん高校生が使っている筆記具はボールペン（理由は後述）。えんぴつは筆箱に常備していないから、それも忘れる理由の一つ。もし持っていたとしても芯がやたらに硬い。そこでわが家で眠っていた新聞記者ご用達の、古いちびたえんぴつを持参した。丸軸で芯が柔らかく、握った時に指にあたる木の感触も優しい。漢字で会社名の刻印されたえんぴつは生徒の憧れの一本となり、使いたがる生徒が後を絶たなかった。



大手乳業メーカーの TIPTOP ブランドの「ホーキーポーキー」。キャラメル粒が入った日本でもおなじみのフレーバーだ。ここでは一番売れるのが 2L の大容量アイス。

クラスでは専用の絵の具用パレットなども使わない。食べ終わったアイスクリームのプラスチック容器の蓋を使うのだ。年間アイスクリーム（一人当たり）の消費量が 28 リットルというアイスクリーム消費大国だけあって、各家庭

からはこの容器が続々と出る。2リットル入り容器の蓋には溝があり、ちょうどいいパレットになる。教室にはありとあらゆるリサイクル品が山積みになっていた。「余った毛糸があれば」とか「牛乳のプラ容器がほしい」などと先生が呟くと、あっという間にリサイクル品が集まる。これは化学や生物、家庭科の裁縫のクラスでもそうだった。

ゴミの分別を進めるため、校庭には必ず3種類のゴミ箱が置いてある。年齢の低い子供たちにもわかりやすいように色分けしてあり、リデュース（ゴミ減らし）、リユース（ゴミ再活用）、リサイクル（ゴミ再生）の3Rを合言葉に小学生ごろから資源教育に取り組んでいる。これに近年もう一つのRが加わった。REFUSE（プラスチックお断り）である。減らしたり、回収して再生という後手に回るやり方は生温いと、使わないことを推進する政策で、NZは2023年7月にシングルユースのプラスチックをスーパーなどで使ったり、または製造することを完全に禁じた。おとな世界のリサイクルもようやくシステムが軌道に乗ったかのように見える。しかし、自治体指定のゴミ袋の値段には地域差があり、60ー80リットルの袋が4〜8ドルととても高価だ。（念のため、これは袋1枚の値段）ゴミ袋の値段が上がるにつれ、不法投棄が増加中、と笑えない現実もある。



3カラーで識別されたゴミ箱。ゴミの投入先を間違わないように、イラストつきのものも見かける。

2ドルショップ vs ダイソー



2ドルショップの外観

畳める持ち運びに便利なハサミ、塗れば色の消えるスティックのり、ノックせずに連続してかけるシャーペン、転がらないえんぴつ、クズの少ない消しゴムなど、読者の皆さんもいくつかはお持ちだと思う。

文房具はいまでも日本が牽引している数少ない分野だ。多くのヒット商品は日本発なのをご存知だろうか。0.38mmの極細ボールペンや、スマホの充電コード断線対策グッズなど、NZでは手軽に買える商品はまだまだ少ない。「セロテープを切ってもベタつかないハサミ」や「削らないえんぴつ」「スマホ盗撮防止セキュリティシール」は筆者も日本で購入して持ち帰った。ぺんてるやコクヨ、トンボ、パイロットの日本製品には3倍の値段がついている。日本留学の決まった友人に、文房具の買い物リストを渡して買ってきてもらうのだ、と興奮気味に話してくれた生徒がいた。学生にとっては高値（笑）の花、憧れの文房具なのだ。

以前、クラスで折り紙をしたときのこと、日本から持参した折り紙だけでは足りず、地元で調達した物を使った。すると、折った角が合わない。角の合わない紙が折り紙として売られているなんて!とカルチャーショックだった。こんな折り紙でも日本の2ー3倍の値札がついて

いる。

近年、オークランドなど都市部にダイソーが出店した。ひとつ4ドル、3つなら10ドルの値段がついている。2ドルショップはここでは100円ショップの代名詞だが「安かろう＝悪かろう」のイメージが強い。それに比べて、ダイソーは掘り出し物を探しながら楽しく買い物できて、憧れの日本の文房具やキャラクターグッズにも出会えるとあって、若者を中心に人気が高い。新しくできたショッピングモールに入っていることが多いが、いつ行ってもキーウィで賑わっている。



工夫に富んだ日本の文房具、と記されたポスター。

喜ばれるお土産はこれ

INNOVATIVE (工夫やアイデア満載) で小さく軽く丈夫、フォルムもきれいでしかも妥協を許さない品質のものが、日本の100円ショップには探せばたくさんある。これを上手に使わない手はない。近頃、日本の100円ショップで外国人ツーリストの姿を多く見かけるのも、そういう理由からである。ひと昔前なら、日本からの手土産といえば扇子に風呂敷、手ぬぐい、人形などの日本情緒に溢れる物が定番だったと思う。ところが、これらはメルカリならぬ Trade Me (NZのフリマサイト) に UNWANTED GIFTS (不要品) として、出品

されているのをよく見かける。それならいっそ、文房具などのもっと実用的な消耗品を選んでもいいのではないか、と思う。

煎餅やかりんとうなどの駄菓子や和菓子、柿の種などのおつまみ類も意外に人気がある。変わったところでは、訪問時期が夏なら蚊取り線香、冬なら使い捨てカイロも喜ばれる。甘いものと言えば、近年テイクアウトの寿司屋でブームになっているのが「餅」だ。ポスターにも MOCHI と日本名で表記されている。羽二重餅のような食感が若者を中心にウケていて、苦手だという人にまだ出会ったことがない。中身の餡はピーチやらブルーベリー、チョコ、コーヒーなど、餅らしからぬフレーバーが多い。一個3-4ドルで決して安くはないが、SOLD OUT になっていることもしばしばだ。



人気の MOCHI。黒ごま、あずき、抹茶味などもある。

板書をしない学生たち

ここ10年ほどの間に、自前のパソコンやタブレットをクラスに持参する BYOD (Bring Your Own Device) というシステムが定着し、YEAR9 (中学2年) になると、タブレットやラップトップが文房具の購入リストに入ることが多くなった。驚いたのは、昔なら板書をする場面で、学生たちが各々のデバイスで静止画を撮って記録するようになったことである。教える

側もしかりで、各教室にはパソコンとモニター、スピーカーがあらかじめ繋がれているので、持参したラップトップをつなげば授業ができる。宿題を出すのもデバイス経由で、提出もまたデバイス経由だ。

BYOD のトレンドはじわじわ小学校にも押し寄せているが、まだ主流とは言えず、子どもたちは鉛筆でアルファベットを書く練習をしている。面白いのは、小学校低学年はえんぴつだけを使い、高学年になり字がうまくなって、先生に許可を得た生徒だけがペンを使うことができるというもの。早くボールペン使用皆伝になればちょっと晴れがましい気分になるそうだ。学年が上がるにつれ、えんぴつ + 消しゴムでなく、ペン + 修正テープの需要が高くなるが、えんぴつからボールペンへの移行は一方通行である。「ペン皆伝」になった後は、えんぴつの出番はほぼ無くなる。手書きの文字には個性が出るし、書き手の意外な癖や一面が滲み出る。生徒を教室の前に呼んで、いっしょにホワイトボードに手書きしながら授業を進めるのは楽しい。プラスも多いデジタル化だが、手書きの機会が減ってしまうのはなんとも残念である。



デバイス（タブレットかラップトップ）を準備できない場合は、政府や学校から無償貸与などの助け舟が出る。もともと BYO は Bring Your Own Drink の略で、レストランなどに自前のアルコール飲料を持ち込んでいい、というルールに使われていた言葉だ。

正解のしるし



正解だとこの印がつく。

全国一斉テストなどの大きな試験のときなどは、ボールペン 2 本しか持ち込めない。不正を防ぐために修正テープも許可されないから、間違うと二本線を引いて取り消し、新たな解答を書き足すのだという。採点時、正解には Tick ✓、間違えば × か • (dot) がつく。教師になりたての頃、不正解に日本式に ✓ をつけて、評価が真反対になったことがあった。30 年近くたった今では、日本のクイズ番組を観ていたわたしと夫のドンが、不正解に ✓ の採点がついたとき「なんで!？」とテレビ画面の前でブーイングした。知らぬ間にアタマの中が「✓ = 正解」になっていて苦笑した。

私は小学校のころから文房具が好きだ。10 年ほど前、京都北白川のガラス工芸職人、菅清風氏の手による「硬質ガラス製ペン」を贈られた。ハッとするほど美しいフォルムに加えて、ガラスなのに書き心地がやさしい。文房具というよりは、アート作品に近いこのガラスペンは明治時代に日本で開発され、世界中に広まったらしい。軸からペン先まで一本で、ガラス以外の素材は使われていない。永久修理保証でも知られるこのガラスペンに代表されるように、工夫と研究を重ね、細部にまでこだわりをもつ日本の文房具は国外でも絶大な人気を誇っている。

ガラスペンの対極にある、使い捨て文化の代表のような 100 円ショップ。でも、そこにある

文房具にも日本の匠は生きている。低価格の製品でも品質やデザインにはこだわりがあり、信頼できる性能のものにも出会えるのに驚かされる。100円ショップへ行くと「文房具売り場で動かなくなる」と、夫には呆れられる。比較観察するのが面白く、新製品やトレンドを見て歩くのに時間がかかるからだ。暗記作業が主とならない授業スタイルのニュージーランドには、暗記を目的とした文具は見当たらない。赤や緑のフィルムで覆うと文字の消える記憶ペンなども見かけたことがない。日本では学生時代に一度は必ずお世話になる、リングに通した単語カードも見かけない。私の日本語やスペイン語のクラスで、単語を覚えるのに厚めの紙を切って手作りさせたのが懐かしい。余談だが、日本人留学生にESOL(外国人のための英語の授業)レッスンをするとき、ホッチキスとシャーペンを見せ「英語でなんというか知ってる？」と聞く。この二つの英語は和製英語とはかけ離れているので、来たばかりの留学生はなかなか正解できない(答えは文末)。皆さんはお分かりになりますか？

(さかいケイツミか WHANGAREI i 在住)

ホッチキスとシャーペンは英語で？

ホッチキスはStapler ステープラー、シャーペンはMechanical pencil メカニカルペンシル。

■ English Garden ローザンベリー多和田見学記

見学会前日の11月10日が悪天候だったため当日の雨が心配だったが、参加者全員の行いが良かったせいか、当日は一転して青空が広がる好天に恵まれた。従来この時期なら厚手の上着が必要かも知れないが、風や寒さに悩まされることも無い絶好のお出掛け日和だ。参加人数は、直前で体調を崩されたキャンセル者も有

り12名となった。



JR 米原駅着 11時53分の新快速で向かう車内は意外と混んでいて、皆この電車に乗っているだろうと思いつつも、それぞれ別々に向かった米原駅の改札口手前で参加メンバーは初めて顔を合わすことになった。車で直接ローザンベリー多和田(※1)に向かっているメンバーを除く全員が揃ったところで駅前のタクシー乗り場に向かうと、案の定タクシーは1台も止まっていないし、来る気配も全く無い。1時間に1本程のローザンベリー多和田行きの路線バスは、30分ほど後の発車だ。そこで、バス停前の小さな観光案内所兼土産店を覗いたりしながら時間を潰すことになった。駅前とは言え行き交う人も車も少ない長閑な雰囲気のためか、のんびりした気分バス待ち時間を過ごした。駅前ロータリーの中央には、ローザンベリー多和田の写真でデザインされたオリジナルラッピングバスがずっと止まっていて、出発時刻の少し前になってそのバスが私たちの待つバス停に移動してきた。乗客の大半は私たちだったが、路線バスのため色々な場所に立寄り、遠回りしながら田舎道を30分ほど掛かって終点のローザンベリー多和田の大きな駐車場に到着した。元々の予定では駅前に12時集合し、タクシーに分乗して15分程で到着し、その後バーベキュー(BBQ)の昼食を楽しむことになっていた。し

かし、バスの待ち時間と乗車時間の長さで到着が予定より1時間程度遅れることになったため、昼食時間を大幅に過ぎてしまっていた。

バスが終点のローザンベリー多和田に到着すると、バス停で大沢ワインズ・ワイン事業部セールス & マーケティングマネージャーの辻村さんが私たちを出迎えてくれた。バスを降りて挨拶が済むと、団体の印であるシールを「服の見える所に張ってください」と言って手渡され、一般の入園ゲートではなく駐車場横の団体入り口に誘導された。本来は15名からが団体ということらしいが辻村さんのご厚意で12名の私たちが団体扱いにしてくれたようだ。

もう既に昼の時間を過ぎているため、入園すると直接BBQ施設に案内された。お腹を空かせた12名が4名ずつ3テーブルに分かれ、待ちに待ったBBQの時間だ。食材の準備やコンロの用意、後片付けなどの煩わしいことが何も無い手ぶらBBQなので、気軽に楽しむことができ助かる。焼く食材は国産の牛肩ロースと豚バラ肉、ウインナー、食べ放題の野菜各種。ご飯も一杯付いてきた。食べ放題の野菜は、収穫時期なら畑から自分たちで収穫した採りたてを調理し、焼いて楽しむことができるのだそう。しかし今回は収穫時期を過ぎているため、野菜コーナーの棚に用意されたニンジン、玉葱、ジャガイモ、ピーマン等を、各テーブル毎に好きなだけ取って来て、皮を剥いたりスライスしたりして焼く食材に加えた。更に辻村さんのご厚意で、ニュージーランド北島の自社畑産ブドウ100%を使用した大沢ワインズ(※2)の美味しい白ワイン(シャルドネ)と赤ワイン(ピノノワール)を1本ずつ差し入れしてくれたことで、BBQの時間がより充実した楽しいものになった。実は私は2010年の2月にニュージーランド北島東海岸ホークスベイ地方の街、アールデコの街並みで有名なネイピア(Napier)郊

外のマラエカカホ(Maraekakaho)地区に在る大沢ワインズのワイン畑を訪れたことが有る。その時は、現地責任者ご夫婦のひとみさんが説明を交えてワイン畑内を詳しく案内してくれた上に、その日の夕方になって、わざわざ宿までお土産にと赤・白ワインを届けてくれたことを懐かしく思い出しながら、BBQとワインを堪能したのだった。私にとってニュージーランドに於ける至極の時間の一つに、晴天の日のランチタイムにワイナリーレストランのオープンテーブルでのんびり昼食を摂りながらそのワイナリーのワインを飲むというのがあるが、今回少しはその片鱗を垣間見ることが出来たと言えなくもない。



食後は辻村さんの先導で、顔と脚が黒く体は白いモフモフの毛に覆われた羊の柵に案内してくれた。その羊はヴァレーブラックノーズシープ(※3)という種で、特徴的な黒と白の配色が「世界一可愛い羊」と言われる所以なのだそう。手前の柵にいた一頭はねじれた長い角が生えた大人の羊で、奥の柵の中にはまだ短いねじれかけの角が生えた可愛い2頭の羊が寄り添っていた。その子羊たちは誰が触ったりなでたりしても、角に触ったって全く嫌がらない、おとなしくて人懐っこい。2頭と一緒に記念写真を撮って貰っていると、羊の直ぐ横にいた一人は服の裾をもぐもぐと食べられかけるというハプニングに襲われた。

その先の園内には「羊のふれあい牧場」や動

物のエサやり体験ができる「わくわくファーム」、妖精たちの村「フェアリーガーデン」、「ひつじのショーン(※4)ファームガーデン」、園内を走る「ローザン鉄道」など、まだまだ長閑な風景が広がる見どころはたくさんあったが、帰りのバスの時間の都合でその先には進まず、様々なショップとカフェやレストランが集まる入退園口方面に向かうことになった。米原駅行の路線バスは1時間に1本程しか無いので、1本を逃すと次は大分遅くなってしまうからだ。私を含む4人は辻村さんに路線バスより1時間近く遅い時間にタクシーを呼んで貰ったので、旧型の外国製バスの前で皆と記念撮影をした後、バスで帰る人たちとは別行動をとることになった。「ひつじのショーン」のテレビ番組に出てきた懐かしい様々なキャラクター達のグッズやお菓子類を揃えた「ひつじのショーングッズ専門店」や、ガーデニング雑貨や花の苗を集めた「ガーデンショップ」、大沢ワインズのワインやニュージーランドを代表する養蜂場アラタキハニーの蜂蜜などが並ぶ「ニュージーランドワインショップ」、そして大きな池の端のバラ園やイングリッシュガーデンなどを見て回った。それでも園内の半分も見たり体験したりできなかつたし、野菜畑の収穫時期を逸していたし、花の全盛時期も過ぎていたのが少し残念だった。色とりどりのバラやハーブの花々が咲き誇り野菜の収穫が出来る季節に、一日中ゆっくり時間を掛けて園内を回ることができたのなら、随分と印象が違うものになっていたことだろう。

タクシー予約時間の少し前になって4人がバス停に向かうと、直ぐにタクシーがやって来た。辻村さんの見送りを受けながら私たちを乗せたタクシーは出発し、バスで来た道とはどうやら違う最短コースで米原駅に向かっているようだった。15分程で駅に着き改札口に向かうと、あとほんの数分で大阪方面行の

新快速がちょうど来るところだ。慌てて4人が階段を駆け降りると、グッドタイミングで直ぐに列車がホームに滑り込んで来たのだった。

(松沼清司)

(※1) English Garden ローザンベリー多和田は、約12万平方メートル(東京ドーム約2.5個分)の広大な敷地内に、池を取り囲む形でローズガーデンと宿根草の庭や果樹とハーブが季節を伝えるキッチンガーデンなど落ち着いた雰囲気イングリッシュガーデンや桜並木。羊のふれあい牧場、ポニーやヤギなど可愛い動物のエサやり体験ができるわくわくファーム。作品のリアルな世界に浸れる「ひつじのショーン」ファームガーデン、妖精たちの村フェアリーガーデン。野菜食べ放題の手ぶらBBQエリア、野菜畑。パンづくり・クラフト体験工房。園内を約1kmの列車の旅が楽しめるローザン鉄道。オリジナルスイーツが人気のカフェやレストラン。素材にこだわったオリジナル商品やセレクト雑貨のギフトショップやガーデンショップ。「ひつじのショーン」グッズ専門店。ニュージーランドの自社畑産ブドウを100%使用した大沢ワインズの自然派ワインとマヌカハニーなどニュージーランドのこだわり商品を販売する大沢ワインズニュージーランドワインショップ……などなど、大人から子供までが一日中楽しむことのできる自然に囲まれたオリジナル庭園です。園の運営会社(株)メリーデイズは、大沢ワインズの大沢ホールディングス(株)100%出資のグループ会社で、当初の社長は大沢氏夫人が務め、現在は大沢氏の義理の息子(長女婿)が引き継いでいる。

(※2) 大沢ワインズは、滋賀県米原市出身の大沢泰造氏が50歳を過ぎてから新たな夢であるワイン造りに挑戦するため、2005年にニュージーランド北島の東海岸ホークス・ベイ地方の町ネイピア郊外に位置するマラエカカホ地区の牧場43ヘクタール(東京ドーム約9個分)を購入。ワイン畑作りから始めて2008年から醸造を開始。現在は完全無農薬のワイン造りを目指している。大沢ワインズには原点でもあるワインとしての「フライングシープ(Flying Sheep)」シリーズ全8種をはじめ、ブランド戦略として生産する高級品のプレステージコレクション「リザーブワイン」シリーズは、自社畑の特別区画で育てた約3割程度の上質なぶどうだけを手摘みにより厳選して収穫し、手間を掛けたワイン醸造技術で

もちいて生産している。更に、リザーブワインの中でも最高級品質のぶどうが収穫できるビンテージのみの限定生産「ワインメーカーズコレクション」がある。

(※3) ヴァレーブラックノーズシープ (Valais Blacknose Sheep) は、スイス南部のアルプス山岳地帯ヴァレー (Valais) 州原産の羊。くるくるとしたカーリーヘアが特徴で、雄と雌共に螺旋状のねじれた角が生えているのも外観上特色の一つ。犬のように生まれつき人間に対して好奇心を持ち、性格は優しく人や仲間と群れていることを好む性格。世界でも飼育数が少ない希少種で、ニュージーランドでも 500 頭ほどしか飼育されていない。日本ではローザンベリー多和田が 2022 年 9 月にニュージーランドより雄羊と雌羊 2 頭ずつ計 4 頭を輸入し、翌 2023 年 2 月に雄羊の双子 2 頭と雄羊 1 頭が生まれて現在は計 7 頭を飼育している。他に栃木県的那須どうぶつ王国が 2022 年に 8 頭輸入して岡山県の牧場に 2 頭、東北地方の牧場に 2 頭を譲渡。その後、那須どうぶつ王国で 2 頭が生まれるなど、おそらく現在は北海道を含めて日本で約 20 頭ほどが飼育されていると思われる。

(※4) 「ひつじのショーン (Shaun the Sheep)」は、英国のアードマン・アニメーションズ (Aardman Animations) が制作する粘土細工の立体アニメーション TV 映画。主人公の羊ショーンをはじめとする個性豊かでチャーミングなキャラクターの仲間たちが、静かな牧場に大騒動を巻き起こす数々の出来事に牧場主と牧羊犬ピッツァーが翻弄される物語。擬音だけで言葉が一切無く、英語圏以外の子供から大人まで共通で楽しめるため、英国のみならず今や世界 170 ヶ国で愛されている。日本では 2007 年から 2020 年まで NHK 教育テレビ (現 E テレ) で放送。また、劇場版も数本制作されていて、日本の映画館でも上映されている人気のクレイ立体アニメーション。その作品の世界観を大切に、ショーンと仲間たちが暮らす牧場と建物そのものを細部にまでこだわって造り上げた世界初のリアルワールドが、ローザンベリー多和田の園内に再現されている。

■ 特別見学会「京都府立図書館」 11 月 15 日

私は大阪育ちなので今日まで多分 200 回以上京都を訪れたと思いますが、京都府立図書館には初めて足を踏み入れました。図書館は毎月第 3 水曜日午後公開日を設けており NZ 協会の見学会には 6 名の参加がありました。約 1 時間、普段は入れないバックヤードへの案内と概要説明を担当者からいただきました。図書館は平安神宮の大鳥居の隣にあり、また京セラ美術館等の文化施設も近隣にあります。図書館は日本初の公立図書館「集書院」を源流として設立され、蔵書は約 134 万冊。京都関係の資料・図書は特に充実しています。府下の 186 ケ所の大学・市町村図書館とのネットワークも充実しているようです。建物は阪神淡路大震災の被害もあり、2007 年にルネッサンス風の正面外壁を残し地上 4 階、地下 2 階に新築されました。明るい室内は読書好きには天国のようです。また、講演会・DVD 上映会・蔵書展示会など多彩な活動を積極的に行っていました。大阪・滋賀・三重・兵庫・奈良・福井の近隣住居者は図書の貸し出しサービスが受けられます。年間総予算約 4 億円、非常勤を含め約 50 名の職員で運営しているそうです。美術館・博物館・神社仏閣などに飽きられたら伝統と格式のある京都府立図書館をお勧めします。

(井上佳久)

■ ヴィラ九条山訪問記

12 月 7 日 (木) 秋の例会にヴィラ九条山を訪れた。季節柄、東山の中腹にある建物から紅葉に覆われた京都市を一望できた。これだけで充分ここへ来た価値はあるなど感じたものの、なぜここでフランスの芸術なのだと思いながら見学させてもらった。

1986年、フランス外務省は、遡る1927年に設立された関西日仏学館の跡地に、芸術家や研究者のレジデンス受入れ施設を建設するプロジェクトの推進を決定する。このプロジェクトは1992年にヴィラ九条山として結実し、現在はフランスの欧州・外務省の文化機関となりアンスティチュ・フランセの支部の一つとして、主要メセナのベタンクールシュエーラー財団とアンスティチュ・フランセパリ本部の支援を受け活動していると聞く。現在、6名の中堅・若手の芸術家が3ヵ月程度滞在し、研究創作活動を行っている。

月に一度第一木曜日の一般開放日のため、創作活動を行っている何人かの芸術家の方々とお会いし、お話を聞くことができた。お会いした6人は、伊能忠孝を登場させて日本について深く知るための小説を進める男性作家、日本的な素材を用いてオブジェを制作し、これを使って茶道の儀式を借用したパフォーマンスを行う二組のペア作家、珍道具と呼ぶ珍妙なオブジェを創り出し、本来の目的を迂回する題材へと翻訳して、様々な方法で表現する女性作家、科学的な色素抽出法を取り入れながら天然の素材を用いてテキスタイルに表現する男性作家、サーカスと武術の結びつきと、武術起源の屈性を日本的な手段で捉え、弓道や現代儀式の探求を行う男性作家だ。おわかりになるだろうか。

それぞれにここでの滞在を楽しみながら（創作室は寝泊まり・飲食する部屋でもある）研究し、創作している様子を見せてもらうことができた。直接お話しもうかがえたが、私は、これまで芸術家と言われる方々とお話しする機会はほとんどなく、それぞれのテーマを熱心に話されてもついてゆけなかった。だが、折に触れ美術館で鑑賞できる圧倒的な芸術品は、こうした人たちによってやがて（あるいは既に）創られ

るのだと思えば、私に理解できなくて当たり前だと思えたものだ。つまり、これ以上各芸術家の内容説明はご容赦願いたい。

こうした施設は世界各国に数あるわけではなく、わずか数カ所に限られるらしいが、今回の訪問で特に感じたことはそこだ。日本が、特に京都が選ばれていることが印象的だ。京都は古都で日本を代表する歴史的な土地だから当然だろう、と思われるかもしれない。だがそれなら鎌倉もあれば、奈良はもっと古い。

話は逸れるが、2017年に京都国立博物館の特別展覧会国宝展があった。その時の展覧会図録に当時の佐々木丞平館長が総論を書かれている。その一部を引用させてもらえば、国宝にはもうこれ以上はないというオーラがある、そしてオーラのあるところに人は集まり、同時に私たちにはこの唯一無二の宝を守ってゆく使命があるというものだ。

完全に私の想像だが、約100年前、フランスには、はるか東に遠く離れた京都のオーラが見えたのではないだろうか。そしてその時、京都には両国の文化交流を理解し、守り発展させようと支援された力のある方々がいらしたのだろうと思う。文化とは、長い年月をかけて品種改良を重ねた結果に生まれる見事な林檎のようなものだと言ったことがあるが、これを交流するという取り組みは、さらに長い長い時間の物語になるのだろう。

日々のことで精一杯の私たちが、歴史と伝統を守る京都を訪れ、文化を巡るフランスとの世紀にわたる物語に触れることができるのは、とても特別な体験だ。まだ行かれていない方には是非一度訪問されることをお勧めしたい。



(服部雅裕)

余談：山を下りた国際交流会館駐車場の裏手（無鄰菴の前）に、漬物屋さん（京つけもの長瀬）があります。今回も好物の昆布で漬けた大根と奈良漬（なんで奈良り）を頂戴し、その夜ポリポリと、とても幸せな気分です漬物文化を堪能しました。

■ クリスマス例会が開催されました

12月23日土曜日、今年は、久しぶりにあの格調高い神戸倶楽部でクリスマス例会を行いました。

ここで少し神戸倶楽部の紹介をしたいと思います。神戸倶楽部は、明治2年（1869年）、西日本最初の外国人クラブとして設立され、それ以来国際的な交流、社交の場として維持・発展して来ました。神戸開港以来155年、神戸倶楽部は神戸市の歴史と共に歩み、国際的な憩いの場として国際都市神戸の中で、独自の役割を担って来ました。ロケーションはトアロードの突き当りの西側で、広大な敷地に緑豊かな庭園と屋外プールを見渡せるダイニングルーム・バー・玉突場等もあります。

例会に話を戻します、出席者は会員、ゲストを含め31名でした。最高齢者は松元副会長のゲストさんお二人は、90歳を超えておられるにもかかわらず、矍鑠とされているのには驚きました。

例会は、石井会長の挨拶に始まり、今年は山下明氏によるポカレカレアナの歌唱指導があったおかげで、全員で「ポカレカレアナ」と「きよしこの夜」を上手に歌う事が出来ました。美味しい神戸倶楽部の料理を頂きながら、NZクイズ・ビンゴゲーム・プレゼント交換・バザー・出席者の近況報告と進みました。

閉会挨拶で柳田名誉会長が卒寿を迎えられて、一人で生活する事の困難さを訴えておられた事が印象的でしたが、ご本人も矍鑠としておられました。

神戸倶楽部の建物は、今年の夏から改装を行う為、残念ながら約2年間使用できなくなるそうです。

当日は天候にも恵まれまして、1日楽しいクリスマス例会を行う事が出来ました。最後にな

La Villa Kujoyama est une résidence de recherche accueillant des artistes et artisans depuis 1992. Lieu prescripteur de la création contemporaine et des échanges artistiques entre la France et le Japon, elle ouvre ses portes aux publics **tous les premiers jeudis du mois.** Venez découvrir son architecture mythique, ainsi que les projets pluridisciplinaires de ses résidents !

ヴィラ九条山は1992年以来、芸術家や職人を迎えるアーティスト・イン・レジデンス施設です。日仏間の現代創作と芸術交流の先駆けとなる場所であり、**毎月第一木曜日に一般公開を行なっています。** そのユニークな建築や、様々な分野のレジデントによるプロジェクトをお楽しみください！

Villa Kujoyama is a research-oriented residence that has been welcoming artists and artisans since 1992. A trailblazing space for contemporary creation and artistic exchanges between France and Japan, it opens its doors to the public **every first Thursday of the month.** Come and discover its mythical architecture, as well as the multidisciplinary projects of its residents!

Ouverture tous les premiers jeudis du mois!
毎月第一木曜日はヴィラ九条山へ！
Public opening every first Thursday of the month!
14:00-21:00

Montons à la Villa comme des mukadel
(「ヴィラ九条山に登りましょう」(ムカデのように)) © Teddy Sanchez










りましたが、会場を紹介して頂きました山田理事に感謝しますと共に、お世話頂きました会員の皆様方本当に有難うございました。



会場風景



神戸倶楽部玄関前
(中村重夫)

■ Japan Day (オークランド)

2月25日(日)にオークランド日本人会主催で第21回目が雨模様のなか開催されたそうです。本イベントは日本の文化と魅力を楽しむ会で、多数のキーウィ・NZ滞在の邦人を含むアジア系の人々で賑わったそうです。和太鼓・ソーラン節の踊り・コーラス・和食の屋台・合気道の実演・折り紙紹介・日本酒と大沢ワインの試飲等々盛りだくさんの内容。日本でいるより

NZのJapan Dayにいけば一日で日本文化を楽しめるようです。川瀬勇初代会長はNZでの「日本祭り」開催の立役者として活躍され、会員の中には1990年代の「日本祭り」で華道・茶道、コーラスを披露された方もおられます。できれば来年のJapan Dayの時期に皆さんと誘い合わせてNZへ行きたいと考えています。



(石井久行)

■ 新会員募集

NZに関心のあるご友人・知人に入会をお誘い下さい。

■ ご寄稿のお願い

NZの社会状況・旅行経験・趣味等の原稿をお待ちしています。次号6月号の締め切りは、5月末です。

■ 50周年記念マグカップ

在庫が少なくなりましたがご希望の方には郵送・手渡しで配布いたします。電子レンジ耐用です。1個1000円、送料800円

